

一般の部

応募歌数

八七一首

最優秀賞

海の日も山の日もなき私に楔打ち込む畑の日がある

勝人かつひと

(新潟県長岡市)

選者賞 (藤島秀憲 選)

転校のたび「しあわせの幸ゆきです」と言うから私たぶんしあわせ

芍薬

(千葉県千葉市)

選者賞 (木畑紀子 選)

こころ病む友が声上げ泣きはじむ泣きなさい笑ひなさいと「花」を歌へば
星野としえ
(新潟県小千谷市)

魚沼市長賞

大皿の黄、赤、緑をイメージし夏野菜の苗選ぶ店先

小島克朗

(新潟県魚沼市)

新潟日報社賞

書くことで生まれる力 短冊も絵馬もぐいつと風を引き寄す

小橋辰矢

(岡山県瀬戸内市)

宮柁二記念館長賞・・・七首

ふるへつつ着信ありと知らせくるポケットのなかのぼくの青空

臼井 均

(岐阜県岐阜市)

姑逝きて葬祭場に飛び来たる黄蝶は化身か夫にまつわる

松井純代

(奈良県橿原市)

今宵こそ金魚荒らしを捕らへんとシャッター切れば 魷いたちが映る

角田正雄

(宮城県仙台市)

瓶に挿すつゆくさ花の咲き終へて息吐くごとく白き根を出す

本間純子

(新潟県長岡市)

山菜の季節となりて店に並ぶ地下足袋と鎌そして熊除け

涌田和芳

(新潟県長岡市)

幼らに日本の遊び教えむと歌うたいつつお手玉を縫う

野口民恵

(ブラジル)

ふるさとの山に抱かれ小屋番す裸のわれを風にさらして

磯部 剛

(新潟県魚沼市)

秀逸（一）・・・四首

昭和には早乙女たりしが遅れ来て機械のあとを補植してゐる

前川久宜

（石川県金沢市）

粥の味梅・鮭・卵と変へてみる私の小さき夫へのサービス

濱田敬子

（福岡県大牟田市）

舅より歟受け継ぎて五十年芋を供えて彼岸迎うる

山本美代

（新潟県魚沼市）

寡黙なる子から話を聞くように根元の土をほぐし草抜く

浅田みどり

（東京都杉並区）

秀逸（二）．．．二十五首

稻植うるツアー客のこゑ今はなく雲雀明るく上がりつつ鳴く

桐沢 茂
（新潟県新発田市）

点滴棒^{てんてきぼう}家来の様に引き連れてエレベーターまで師の見送りは

六月朔日光
（福岡県福岡市）

植えしより風の日ばかり続くなりトマトはゆらりゆうらり強し

ひろ
（新潟県長岡市）

峡の村一揆のごとく老人の集まりて組む盆の櫓を

米谷 茂
（兵庫県神戸市）

車窓よりけふも見て過ぐ^{しろあと}城址の木陰にのぞく白秋の歌碑

羽田野とみ
（大分県大分市）

記憶より小さく山と川のあり半世紀ぶり母の故郷

野口民恵
（ブラジル）

いまさらに農は祈りと思ひをり梨の幼果を霰打つ音

小野眞智子
（新潟県北蒲原郡）

知らぬ地に四年を暮らしどの道もわが家へつづく道となりたり

豊田桂子
（愛媛県西条市）

街路樹は日毎色づきゆるやかに君の名字に馴染みはじめる

大江美典
（兵庫県西脇市）

ひたむきな傘寿の妻のウォーキングあれよあれよというほど速い

本多義夫
（新潟県魚沼市）

軒下への字への字の掛大根もう漬け頃ですと態度で示す

大塚 明 (新潟県魚沼市)

地元紙でふんはりくるみ朝採りのトマトを新宿区民へ送る

山下佐保 (新潟県糸魚川市)

お不動さんに隣りて小さき牛の墓も拝みて通る古里の径

佐野佐智子 (香川県さぬき市)

鰻突く箱眼鏡より水底のくるぶしに砂青く流るる

井口光雄 (新潟県南魚沼市)

廃校の木造校舎毀はさると告げ来し葉書朽ち葉の匂ひ

後藤 進 (岐阜県岐阜市)

入院の児のともだちはすぐできる点滴のない掌を合わせたら

尾内甲太郎 (静岡県浜松市)

成人の日より幾度も着せやりし娘の振袖の袖を切りたり

前原洽子 (岡山県津山市)

田をつぶしマンションの建つ集落の平均年齢いくばく下がる

津野律餘 (大分県大分市)

庭隅に石置くだけの犬の墓四季折々に草木の守りぬ

大塚 明 (新潟県魚沼市)

子や孫の土産は足腰目の守り呆けを封じる飴までもある

佐藤千鶴子 (新潟県魚沼市)

ハッカ糖のブリキの看板雪かぶりここは塩沢母のふる里

大熊佳世子 (茨城県鹿島市)

教え子に早世したる二人いて五月と九月は星を見る月

村上秀夫 (山形県酒田市)

空仰ぐカメラアングル鋭くて若竹なべて一点を向く

文野見枝子
(高知県高知市)

群青に澄む空の下裸麦「イチバンボシ」刈る朱のコンバイン

東谷テル子
(香川県さぬき市)

インターを降りて東へ五軒ほど行けば畑に母の背見ゆる

笠巻 睦
(埼玉県草加市)

佳作・・・四十六首

五年振り一年生の誕生に区長自ら通学支援

安藤悦男

(埼玉県深谷市)

田の仕事誘なふやうにかはづなくかすかに青く風ぬるき午後

八幡義雄

(福島県いわき市)

捨屋敷に育つ山菜独活うるいぜんまいわらび水菜櫛の芽

佐藤千仙

(新潟県魚沼市)

ウイルスに勝つには「睡眠・栄養」ところ配れば夫が肥満す

小松朝子

(栃木県栃木市)

世の中で一番好きな音問はる田植畝終った夜の雨音

勝人かつひと

(新潟県長岡市)

延命の治療はしないと妹と意思統一す母の病棟

磯部 剛

(新潟県魚沼市)

保護された鹿は本当に幸せか味噌汁の中豆腐が泳ぐ

松浦元子

(神奈川県川崎市)

あの木にはカブトが来るぞクワガタも孫に自慢の私の秘密

林 建生

(愛知県岡崎市)

十二年夫を看とりし体温計コロナ禍の日々腋にはさめり

旭 千代

(千葉県茂原市)

スマートな生き方できぬ夫なれど熱のあるわれに桃缶買い来ぬ

上村美恵子

(新潟県魚沼市)

亡き母の「負けるが勝ち」の口癖を秘めて笑える昨日のことは

野口民恵

(ブラジル)

漁師より魚が来れば採れたての独活を送りぬクール便にて

磯部 剛

(新潟県魚沼市)

ルパンなら外して逃げるか左手に絡み付いたる透析の針

村上英明

(三重県鈴鹿市)

梅雨に入り吹き降りとなる夕まぐれけんき 欒大樹をひどく揺るがす

鈴木昭紀

(静岡県三島市)

耕運機の後をわさわさ競ひあひツ、ツ、ツと啄む白鷺十羽

中村久恵

(福岡県三潴郡)

漆黒の闇に一瞬閉ざされる予鈴が響く午後シアター

風間勝治

(愛知県知立市)

積雪がゼロの良し悪し人を見て使い分けたり雪国なれば

平澤恵美子

(新潟県魚沼市)

装ふとは己に魔法かけること深山の蔦も一夜にかはる

近藤好廣

(京都府城陽市)

日の出日の入り五時五十五分 今日的女子会中立通さん

石塚恵子

(香川県さぬき市)

うす揚げと大きなかぶら実にしたる今朝のみそ汁ふつくら匂ふ

宮本君子

(広島県広島市)

オンライン会話の内容そこそこにやっぱり気になる私の前髪

長井直子

(新潟県長岡市)

おでん屋のおでんの湯気に顔入れてああ出張の一日が終はる

中村重義

(福岡県北九州市)

ひと目一目手縫いのマスク大きくて母のぬくもり吾を守りぬ

鈴木 仁 (秋田県大仙市)

初山のぜんまい狩らむと出掛けしが熊の糞見て逃げて帰れり

佐藤千仙 (新潟県魚沼市)

ただひとつ枯木に黄なる花梨の実頑固で独りの父のごとくに

上田康彦 (千葉県四街道市)

入日入る風呂に五つの柚子浮かべ不随の妻のからだ拭きやる

風間洋平 (新潟県新潟市)

冬の夜をファスナーのごと閉じてゆく長岡行の最終電車

磯部 剛 (新潟県魚沼市)

ペースメーカー電池の寿命あと五年くり返し聞く九十五歳の母

高山ナオミ (群馬県前橋市)

窓外に広がる青田見やりつつ心靜かに歯を磨くなり

野石 念 (新潟県十日町市)

当番で尻がかなへびを持ち帰り餌を探すに総出となりぬ

伊橋 徹 (千葉県山武郡)

収穫の玉葱籠に取り分けて濃き匂ひごと配り終へたる

井口光雄 (新潟県南魚沼市)

週三日仕事と思えば透析も気楽なものかせと洒落た服着て

村上英明 (三重県鈴鹿市)

奈良鹿のまなこ涼しく見やるさき草はら風の大路なりけり

相原利沙 (愛知県津島市)

土石流に押し潰されし家横の紫陽花の青きわだちてあり

寺岡徳雄 (広島県庄原市)

病院の月報表紙に揺れてをり短冊一葉叔母の句を乗せ

佐久間敬喜

(埼玉県所沢市)

雪下にならぬようにと竹・茅を大樹に括り「どんど」に備える

平澤恵美子

(新潟県魚沼市)

畑打ちに畝立てまでもしてくれる子の買いくれしミニ耕耘機は

大塚 明

(新潟県魚沼市)

午後よりは訪問介護あぢさみの切り絵はがきに集中の時

櫻井 静

(埼玉県さいたま市)

老人は朝日に長き影落としときおり光る小鯡釣り上ぐ

生田麻也子

(鳥取県米子市)

今こそはアスクレピオスの薬師蛇コロナ退治の知恵を授けよ

中島知子

(新潟県南魚沼市)

桜咲く古木の脇に老人を探す貼紙すこし黄ばみて

植田和子

(愛知県名古屋市)

さりさりと米洗いつつふるさとの地平まで続く青田のうかぶ

鈴木文子

(千葉県佐倉市)

父母が逝きわれのみが知る 裏山に三つほど生る木通の在り処

森田則子

(三重県四日市市)

髪結を生業なぐわいとせし亡き母は桃割れ結いて写真に笑まう

鈴木保江

(愛知県知多市)

楽しくて嬉しくて飛ぶ燕の子 歌詠み始めし頃のわれなり

西村愛美

(愛知県岡崎市)

「もしもし」を「ぼちぼち」と言ふ電話あり二歳の「ぼちぼち」いつまで聞ける

木戸博恵

(広島県広島市)